



Fore Please / 世界ゴルフ

識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお届け。
今回は世界を飛び回る実力派ハウスキャディについて。

渡り鳥のように 地球横断するキャディ。

寒さも峠を越えて、いよいよ日本在住のゴルフファンの方も、今年のゴルフシーズンの到来を楽しみにされていることと思います。ハワイのように通年気候のよい地域は別として、北半球では冬も終わりこれから春になります。一方で、南半球のオーストラリアやニュージーランド、そして南アフリカなどはゴルフファンにとって今が一番よいシーズンですね。

この南半球と北半球を忙しく行き来するのが、ハウスキャディたち。ツアー選手のバッグを担ぐトーナメントキャディは、オフの時期には全く別の仕事をしたり、留守にしていた家庭の仕事などに動きますが、ゴルフ場のハウスキャディたちは、まさに渡り鳥のような生活をしています。

たとえば、スコットランドのセントアンドリュースのハウスキャディたちは、夏に訪れたアメリカやオーストラリアのゴルフファンのツテで、寒い時期には暖かい所のゴルフクラブに出稼ぎに行く者もいます。セントアンドリュースは一年中オープンしているのですが、その気になれば地元でも仕事はあるのですが、彼らはどこに行ってもありがたく重宝されるのだそうです。です

から、地元でバッグを担ぐ仕事有一段落するクリスマス後は、家族を残してオーストラリアなどに向かい、3月ぐらゐまで出稼ぎをします。帰りはアメリカ経由

で常連さんのいるフロリダに行ったりして、スコットランドでも気候が安定してくる5月頃には戻ってきます。

Vol.28

世界の
ハウスキャディ

クラブセットを 決めてくれるキャディ術。

ゴルフファンのいるところに何処までも行ってしまう行動力も凄いです。彼らが重宝される理由はやはり、ラウンドを楽しく盛り上げてくれる技術ではないでしょうか？ バッグの持ち主のクセや技量を、クラブを見ただけで見極めるだけでなく、コースに合わせたクラブの選択や、飛距離に合ったショットの組み合わせなどのコーチングを受けるのを、楽しみにしているプレーヤーたちもいるほどです。当然ながら、プレーの進行に細心の注意を払って、前後のグループとの間隔も適切に取ります。また、場合によってはワンポイントレッスンをしてくれたり、プレーヤーの技量を最大限発揮させるのは、プロのハウスキャディたる所以です。

また、実際に彼らにキャ



技術と会話術で ラウンドを盛り上げる 渡り鳥キャディの実力。

ディをお願いすると、自分が打つ前からウェッジを手にさされているなど、何枚も上手なアドバイスに驚かされると同時に、少々ショッキングな経験もします。とはいえ、彼らのようなキャディにバッグを担いでもらうと、知っているはずのコースの様子が全く違って見えますし、自分のプレーの思い込みから解放されることも多々あります。

日本のいわゆる「キャディさん」は、クラブを運びグリーンでボールを拭いてくれるだけの方も多いようです。日本でも、プロ意識の高い優秀なハウスキャディを沢山育成していけば、ジュニア世代からアマチュア、プロゴルフファナーに至るまで、ゴルフ界全体のさらなるレベルアップに繋がるのではないかと思います。



ゴルフビジネスの
プロフェッショナル
神野方仁 (じんの・みちひと)

1956年生まれ。テレプランニング・インターナショナル株式会社・代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary: www.tpi-j.co.jp/ceo_blog/

イラスト／ソリマチアキラ